

## 令和6年度第2回高知県健康づくり推進協議会 議事要旨

日 時 : 令和7年1月30日(木) 18:30~20:30

場 所 : 高知城ホール「多目的ホール」

方 法 : 対面とオンライン(Zoom)の併用開催

出席者: 出席 17 名、代理出席 1 名、県教育委員会 1 名、事務局 6 名、オブザーバー 5 名

議事(1) 第5期高知県健康増進計画(よさこい健康プラン21)の推進に関する令和6年度の取組状況及び来年度の取組予定について

### ■専門部会の開催状況

- ・質問なし。

### ■「子どもの頃からの健康的な生活習慣の定着」「働きざかりの健康づくりの推進」について

- ・委員から、子どもの分野の取組について、新しい取組があるかとの質問があった。事務局から、今年度は、食生活改善推進協議会と教育委員会が連携し、朝食摂取に課題のある学校に入っていたこと、部会で親世代に向けた働きかけをもっとしていくべきではないかとのご意見もあったことから、来年度は、これまで実施してきた、高知家健康チャレンジに「若い世代の朝食摂取」の項目を加え、啓発していくと回答した。
- ・委員から、子どもの頃からの健康的な生活習慣の講師派遣について、今年度の実施件数が2件となっている。専門的な指導をしてもらえるよい機会なので、さらに実施件数が増えるようにしていただきたい。また、来年度もこの取組はするのかとの質問があった。事務局から、この取組は、副読本と併せて各学校へ周知しているが、利用してもらえる工夫が十分ではないと受け止めている。教育委員会と連携し、できるだけ多くの学校で利用してもらえるように働きかけていく。また、講師を福祉保健所から派遣しているため、各福祉保健所にも意見を聞きながら取り組んでいくと回答した。
- ・委員から、就学前の子どもの保護者への基本的な生活習慣の重要性の周知について、なぜ3歳児の親への周知なのかとの質問があり、事務局から、その後の生活習慣が決まる重要な時期であるためと回答した。
- ・委員から、スクールヘルスリーダー派遣と教育委員会と食生活改善推進協議会の連携

による健康教育について、どう違うのか。また、副読本は、誰でも見れる状態になっているのか、また、学校の先生の負担になっていないのかとの質問があった。事務局から、スクールヘルスリーダーは、運動などの専門的な知識を持った方々であり、食生活改善推進員については、ボランティアで、食育の観点から調理実習等も含め、食の大切さを子どもたちと一緒に考える活動を行っている。副読本については、保健政策課のホームページで公開しているが、見られてないということは、まだ周知が十分ではないということであり、周知に工夫をしていく。教員の負担の軽減については、講師派遣等の事業を活用していただいたり、新たに資料を作らなくても、授業で副読本を活用したりすることで、役立っているとも聞いている。デジタル化の強みを活かして、教員の使いやすい副読本になるよう検討していくと回答した。

- ・委員から、職場対抗ウォーキングチャレンジについて、自分も参加しているが、もう少し気候のいい時期に開催してもらいたいのご意見があった。事務局から、職場対抗ウォーキングイベントについては、商工会議所や経営者協会の方にも周知等、ご協力いただいて、感謝している。部会での検討や、周知の時間も必要だったため、年末年始をまたぐイベントとなった結果、参加者にご負担をかけたのではないかと。来年度は、開催時期の検討と、より多くの人に参加してもらえるような仕掛けをしていきたいと思っている。お気づきの点があれば、また教えていただきたいと回答した。
- ・委員から、職場対抗ウォーキングチャレンジについては、歩くことがメインであるのならば、血圧と体重のポイントはなくしてもいいのではないかと思います。また、ポイント制もいいが、歩数対抗でもいいのではないかと思いますのご意見があった。事務局から、血圧と体重については、事業の評価として、開始時と開始後と2ヶ月経った時に、参加者がどう変化したかを見ていくために、入力してもらうようにしていた。2月上旬にレコ活イベントも開催予定であるため、その結果については、次回の協議会で報告する。歩数については、無理して何万歩も歩く人が出てくるため、ある一定上限を設ける意味で、ポイント制にした。部会でいただいた意見も取り入れながら、できるだけ皆さんが楽しく参加できるようにしていきたいと回答した。

#### ■「生活習慣病の発症予防と重症化予防対策」について

- ・委員から、骨粗鬆症の対策として、運動療法も非常に有効と思うが、それについてのパンフレットを作ることなどは検討しているかとの質問があった。事務局から、検診のPRと併せて啓発資料の作成も考えていたため、現在取り組めていないが、骨粗鬆症そのものの周知や、予防の大切さの啓発は進めていけるため、来年度も引き続き取り組んでいくと回答した。

- ・委員から、COPD について、医療機関へチラシを作成し配布したことについて、呼吸器系の医療機関の従事者や、かかっている患者は、COPD についてすでに知っているもので、専門でない医療機関に配布した方が周知、啓発をより効果的にできるのではないかとのご意見があった。

- ・委員から、がん対策の取組について、市町村への支援の中で、「夜間検診、コンビニ検診」とあるが、どういったものかとの質問があった。事務局から、夜間検診については、初めての取組で、職域のアンケートの中で、日中は仕事で検診に行くのが困難とのご意見があったため、来年度は、高知市で夜間に広域のがん検診を実施予定で、受診率につながる効果があれば、再来年度以降に他の市町村に広げていく予定。コンビニ検診については、県と包括協定を結んでいるローソンに協力してもらい、ローソンの駐車場に検診バスを乗り入れる方法で実施予定と回答した。

#### ■「分野ごとの健康づくりの推進」について

- ・委員から、たばこ対策の禁煙支援について、赤ちゃん会での禁煙指導・受動喫煙指導について、若い世代では、たばこを吸わない人が増えてきている印象だが相談件数が多いように思った、相談者は、自分のこととして相談しているのか、周囲の人の喫煙についての相談なのかとの質問があった。会長から、来場者全員に声をかけているので、相談件数は多い方ではあるが、赤ちゃんを連れてきている人たち自身の相談というのは少ないとの回答があった。

- ・委員から、とさ禁煙サポーターについて、どういった活動をする人なのかとの質問があった。事務局から、この制度自体は以前からあったが、今年度役割等について改めて整理をした。それぞれの専門分野のお立場から、できるサポートをしていただくこととした。サポーターのキャラクターとバッジも作るなど、より分かりやすいよう取組を進めている。

#### ■「社会環境の質の向上」について

- ・委員から、ソーシャルキャピタルについての説明があった。

- ・委員から、地域共生社会の取組動画を見た。仕組みを作るのも大変だが、運用していくことも大変だと思う。まずは、皆さんにこの取組について知ってもらうことが大切。活動する方をどういう風にリクルートするのか知りたいとの質問があった。事務局から、住民主体として活動しており、それぞれが役割を持って作っていった。

まだ地域共生型社会の取組について周知が十分ではないため、啓発活動等にもこれから取り組んでいく。また、身近に感じられる取組例もあげていきたいと回答した。